

鶴見台
ひとまもり・まちまもり協議会
地域ビジョン

令和7年3月

目次

【第1部】 鶴見台地区について	1
1 あいさつ	1
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは.....	2
3 鶴見台地区の概要.....	3
4 鶴見台地区の人口.....	4
5 協議会の体制	5
6 今までの活動	5
【第2部】 地域ビジョン策定について	6
1 地域ビジョンについて	6
2 地域の現状について.....	6
3 鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標.....	8
4 鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン	10
【第3部】 課題解決ワークショップの開催について	11
1 課題解決ワークショップの開催	11
2 【第1回】 地域の課題について考える.....	12
3 【第2回】 地域で求められていることを考える	14
4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える	16
5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿	19

【第1部】 鶴見台地区について

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会が
地域の明るい未来の実現にむけて活動していくために
「地域ビジョン」を策定しました。

1 あいさつ

鶴見台地区は、別府国際観光港を有し、公園も多く緑豊かな住宅地です。鶴見台中学校、石垣・春木川小学校が所在する地域でもあり、ファミリー層が多く居住していることも特徴です。さらに九州横断道路や国道10号線が通っており、商業施設も多く立地しています。自然と都市の便利さを両立させた、落ち着いた環境で暮らしを楽しむには最適な場所です。

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会は、令和3年4月に発足し、石垣地区と春木川地区の自治会14町と19の構成団体が連携し、地域の特性をいかながら課題解決に取り組んでまいりました。

そして、この度、「鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会地域ビジョン」が完成いたしました。これは、地域の皆さまと共に地域の未来を考え意見を交わしながら作り上げたものであり、今後の指針となる一冊です。

本冊子では、これからの地域の在り方や取り組むべき課題について皆さまと共有し、よりよい未来を築くための指針を示しました。今後は、この地域ビジョンをもとにして地域の皆さまと力を合わせながら、子どもから高齢者までいきいきと健やかに生活できる地域づくりを進めてまいりますので、多くの方に関心を寄せていただき、ご参加をいただけますと幸いです。

最後に、ご協力いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会
会長 石井 範明

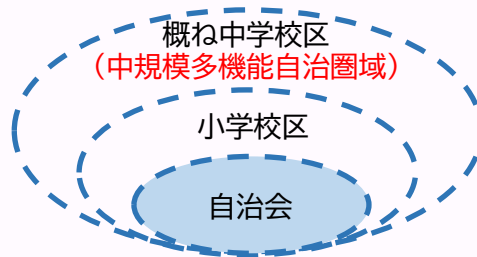
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは

～地域がつながるまちづくり 市内7つの新たなコミュニティ～

【持続可能な地域コミュニティに向けて】

別府市では将来に向けて、従来の小学校区の自治の範囲を概ね中学校区の圏域に広げて自治運営の基盤を拡大することにより、様々な機能をもつ中規模多機能自治を推進しています。

現在、7つの圏域の地域運営組織として、多様な主体が連携する「ひとまもり・まちまもり協議会」が新たな地域コミュニティを形成し、地域の特性をいかながら課題解決に取り組んでいます。



別府市 HP より

【ひとまもり・まちまもり協議会とは】

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。

自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

別府市 HP より

■ ひとまもり・まちまもり協議会一覧

概ね中学校区の圏域で7つのひとまもり・まちまもり協議会が活動しています。

山の手ひとまもり・まちまもり協議会

中部ひとまもり・まちまもり協議会

南部ひとまもり・まちまもり協議会

朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会

北部ひとまもり・まちまもり協議会

鶴見・南立石・東山ひとまもり・まちまもり協議会

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会



3 鶴見台地区の概要

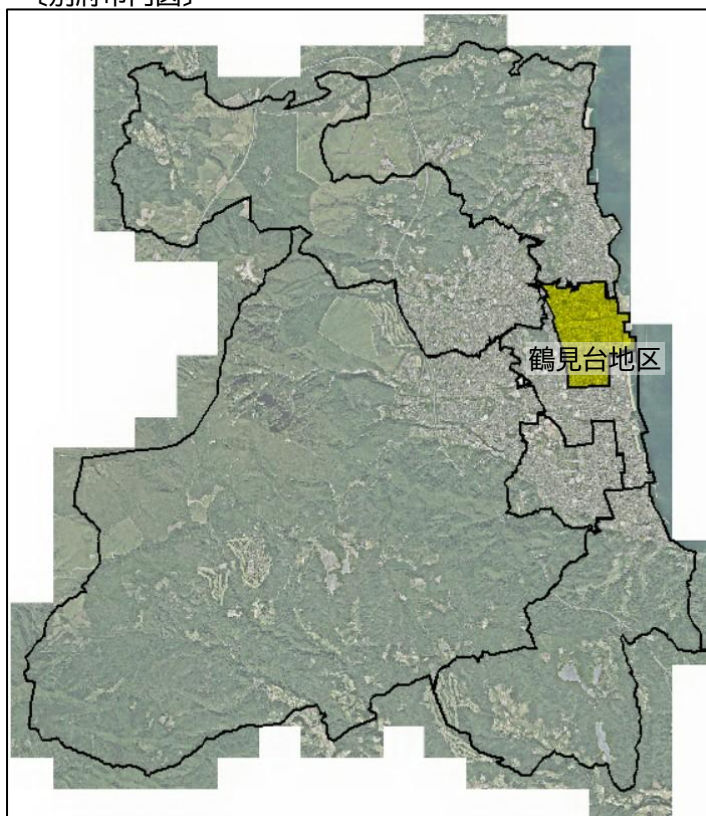
鶴見台地区は、別府市の中部に位置し、地区の中央には春木川が流れ、東には別府湾を望む美しい自然の中に、閑静な住宅街と生活に便利な商業地が広がっています。九州横断道路の起点や海の玄関口である別府国際観光港を有し、多くの観光客も迎え入れています。

住宅街の中に緑豊かな公園や共同温泉が点在し、住民の交流・憩いの場となっています。現在、気軽にスポーツを楽しめる施設として春木川公園が整備され、地域活性化の新たな拠点としても期待されます。

地区の人口は約 15,000 人、世帯数は約 8,700 世帯、高齢化率は約 27%であり、7圏域(協議会)で、人口は2番目に少なく、高齢化率は最も低くなっています。

(※人口・世帯数・高齢化率は令和6年7月末現在の数値)

〔別府市内図〕

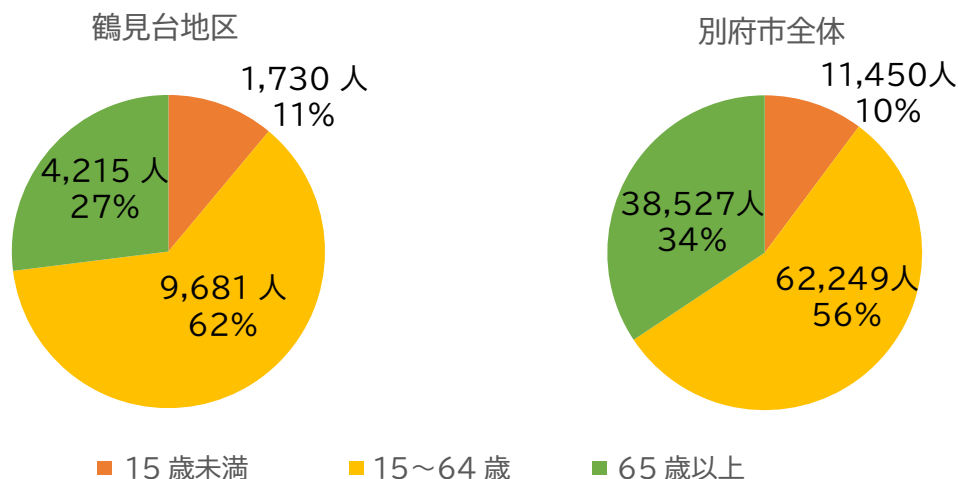


【鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の基本情報】

設立	令和3年4月1日
構成団体	自治会(石垣・春木川14自治会)、町内公民館、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、青少年育成協議会、体育協会、小学校、中学校、PTA、地区公民館、石垣地区防災士会、消防団、地域包括支援センター、春木川を守る会
該当地区	石垣西四～十丁目、石垣東四～十丁目、南須賀町、汐見町、船小路町、中須賀元町、中須賀本町、中須賀東町、春木町、上人南、桜ヶ丘

4 鶴見台地区の人口

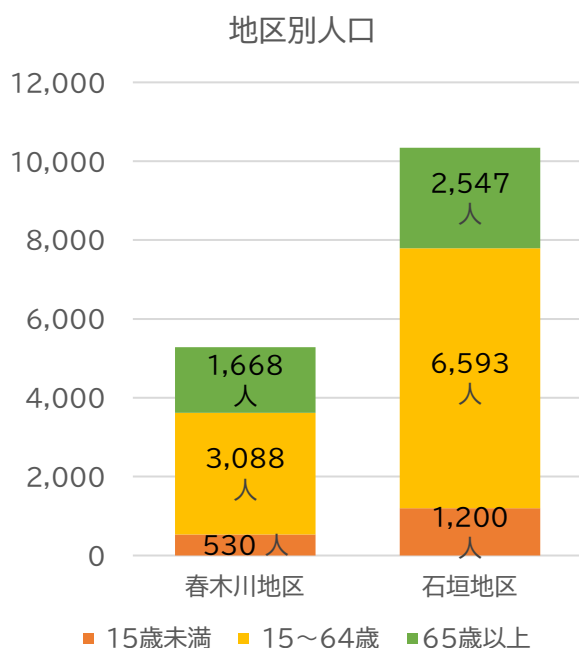
■ 鶴見台地区と別府市全体の人口構成(令和6年7月末現在)



鶴見台地区の人口構成は、65歳以上の高齢人口割合が27%と、別府市全体の34%と比べると低くなっています。これは、他の地域と比べて、高齢化が緩やかであるといえます。一方で15歳～64歳にあたる生産年齢人口割合は約62%と、別府市全体(約56%)より高くなっています。

鶴見台地区は、働き盛り世代の割合が高く、高齢者の割合が比較的低いという点が特徴として挙げられ、15歳未満の比率は11%で、別府市全体と、ほぼ同水準となっています。

■ 地区の人口(令和6年7月末現在)

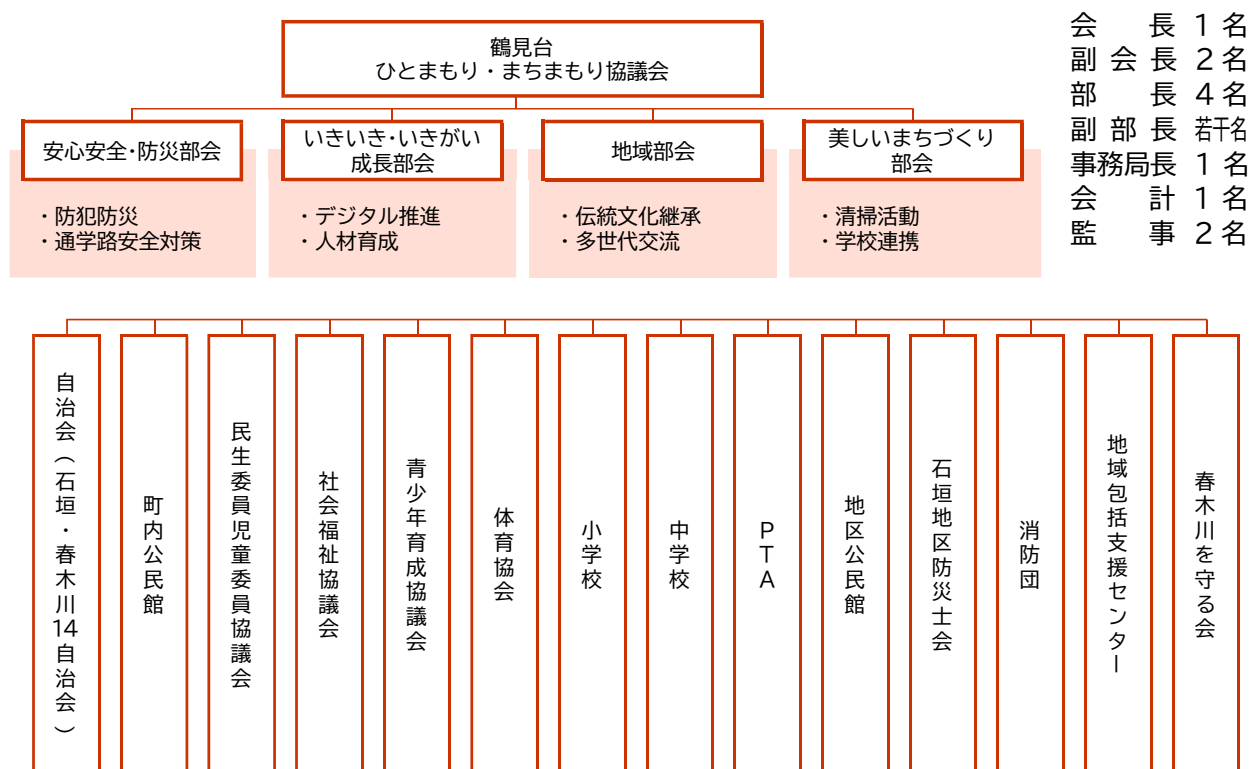


地区内の人口は約15,000人で、地区別にみると、春木川地区が約5,000人、石垣地区が約10,000人となっています。石垣地区が春木川地区の約2倍の人口となっており、人口規模に大きな差がある地区です。

春木川地区は65歳以上が約3割を占めるため、高齢化がやや進んでいると言えます。石垣地区は15～64歳が6割を超え、子どもの割合も12%ほどあるため、相対的に若い世代の多い地区と言えます。

5 協議会の体制

【組織図】



6 今までの活動

【地域美化活動】

美しいまちづくりのための活動を実施しています。

- ・地域住民と小・中学生による清掃活動(通学路・春木川河川敷周辺)



【防災・防犯対策】

地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目指して継続的に災害対策等を実施しています。

- ・防災備品の整備
- ・防災倉庫の設置
- ・こども110番の家(子ども見守り活動)



【その他活動】

- ・トリプル100健康教室
- ・石垣地区の歴史講座
- ・スマホ教室
- ・掲示板整備
- ・先進地視察研修



【第2部】 地域ビジョン策定について

1 地域ビジョンについて

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。

2 地域の現状について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施し、鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題、目指すべき姿について整理しました。

① 幅広い世代が参加する組織にする

本協議会では、地域の身近な課題を解決することを大切にし、環境美化活動や災害対策など、住みやすいまちづくりにつながる取組を行ってきました。しかし、特定の人に運営の負担が偏る一方で、新しい担い手の確保が十分にできていない状況であり、活動への若い世代の参加が少ないことが課題となっています。

この背景には、活動の目的や内容が十分に伝わっていないことがあると考えられます。また、住民同士の付き合い方が変化する中で、活動への参加が負担に感じられることもあるため、その魅力や価値をより多くの住民に伝えていくことが重要です。

今後は、各世代の関心にあった活動を実施するなど、より多くの住民が参加しやすい協議会にしていきます。また、運営拠点の整備を進めるとともに、関係団体との連携を深め、地域全体で支え合う仕組みを築いていきます。

② 情報発信・共有にデジタルを活用する

本協議会では、これまで回覧板や掲示板などを活用して広報を行ってきましたが、多様な生活スタイルへと変化する中で、情報が十分に届けられていない状況です。

今後はデジタルを活用し、より効果的な情報発信を進めることが重要です。一方で、高齢者の中にはインターネットの利用が難しい人もいるため、従来の回覧板や掲示板も引き続き活用し、誰もが情報を得られる仕組みを整えていきます。

また、組織内の情報共有にもLINEなどのSNSを活用していきます。協議会のデジタル化を進めることで、情報共有を円滑にし、住民同士のつながりを深める活動を進めます。

③ 子どもが参加できる活動をする

本協議会では、清掃活動などを通じて、子どもたちに地域への親しみを持ってもらう取組を行っています。しかし、近年では子ども会の活動が減少するなど、子どもを中心とした活動の機会が限られてきており、従来の仕組みでは子どもと地域が関わる機会が少なくなっています。

今後は、PTAや学校と積極的に連携し、子どもたちが地域活動に参加できる環境を整えていきます。若い世代の意見を取り入れながら、より参加しやすく無理なく継続できる形へと工夫を進めていきます。世代間交流を促進し、地域ぐるみで子どもを育てる文化を醸成することで、より豊かなコミュニティを築いていきます。

④ 安心・安全な地域にする

近年、自然災害の頻発や南海トラフ地震への警戒の高まりを受け、地域の災害対策の重要性が一層増しています。本協議会では、地域の安全・安心をまもるため、子どもの見守り活動や防災備品等の整備を進めてきました。しかし、非常食や防災備品の保管場所など、住民への周知が十分に行き届いておらず、防災訓練の参加率も低い状況です。高齢者の一人暮らし世帯が増える中、災害時の対応をより充実させる必要があります。

こうした状況を踏まえ、今後は地域の防災マップを作成するなど、高齢者をはじめとした地域住民の安否確認体制の強化が必要です。さらに、学校と連携した防災教育を進め、若い世代の防災意識を高めることで、住民同士で支え合い、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

3 鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

地域の現状や課題の確認から整理したキーワードより、鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会が活動するうえで活動目標と活動方針を整理しました。

● 活動目標①

世代を超えて一丸となって協力できる協議会
求められていること
・ 協力組織との連携を強化する ・ 役員などの分担を明確にし、負担が偏らないようにする ・ 若い世代が活動しやすい組織にする
活動方針
協議会の活動により世代間の連携を強化します。自治会との役割分担を明確化し、協議会と協力組織の連携を強化します。

● 活動目標②

情報発信改革・コミュニケーション改革
求められていること
・ 活動内容を見えやすくするため、協議会の広報誌を作成し配布する ・ 参加者や協力団体が増えるよう働きかける ・ LINEなどデジタル技術を活用する
活動方針
実施している広報活動の有効性を検証します。地域住民との円滑なコミュニケーションの実現のためにデジタルを活用した情報発信を進めていきます。

● 活動目標③

子どもと地域をつなぐ協議会

求められていること

- ・ PTAや学校と連携し子どもが中心となる取組を増やす
- ・ 親世代への活動内容の周知を強化する
- ・ 子どもたちが安心して外で遊べる地域にする
- ・ 子育て世帯が困ったときに頼れる組織となる

活動方針

子どもが地域活動に参加するための仕組みを柔軟に変化させ、子どもや保護者が必要とする活動に取り組みます。

● 活動目標④

地域をまもり、支える組織づくり

求められていること

- ・ 災害対策や防犯に向けた取組を強化し安全なまちにする
- ・ 一人暮らしの高齢者世帯への支援を行う
- ・ 住みやすくきれいなまちづくりに取り組む
- ・ 何かあったときにすぐに動ける組織として、地域のセーフティネットになる

活動方針

地域の困りごとの見える化を進めます。また、災害時に備え、日常から地域の防災意識を高める活動を行います。

4 鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

設定した活動目標や活動指針から、鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

**住民の毎日をまもる協議会として
「広域のつながりでどこにいても安心できるまち」へ**

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の 目指す地域づくり

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会は、身近な課題に目を向け、安心・安全な地域づくりに取り組む組織として、住民の生活に寄り添うべくこれまで活動に取り組んできました。

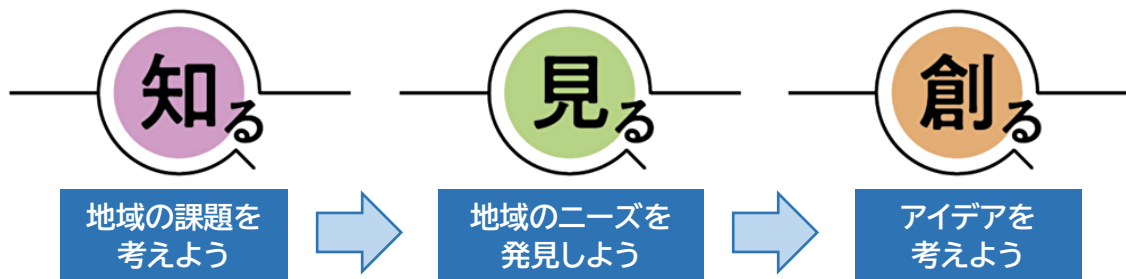
一方で、協議会の認知度が住民に十分広がっていないことが課題となっており、その一因として、自治会と協議会の明確な役割分担ができていないことが挙げられます。

今後は、協議会として一歩進み、自治会の役割と、広域の組織であるひとまもり・まちまもり協議会の役割を明確にすることで、住民の身近な日常をまもる活動だけではなく、地域の未来を見据えた活動を実施していきます。例えば、災害対策のような自治会単位では対応が難しい広範囲な課題に、協議会ならではの視点とネットワークで積極的に取り組みます。それぞれの組織が役割を発揮し、住民の毎日をまもり、安心を与える協議会となっていくます。

【第3部】 課題解決ワークショップの開催について

1 課題解決ワークショップの開催

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考※を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



【第1回】 地域の課題について考える

活発な意見交換の中で、地域に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題について考えました。

【第2回】 地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中に潜在する「ニーズ」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。

【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

第2回で設定された「問い」を解決するための具体的なアイデアを考え、「絵(図)」という形でイメージを具体化しました。

ビジョンの検討、とりまとめ

ひとまもり・まちまもり協議会 地域ビジョン策定

※デザイン思考とは

問題を解決するための思考法の一つです。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

2【第1回】地域の課題について考える

活発な意見交換の中で鶴見台地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題が何なのかを考えました。参加メンバーから挙げられた課題を紹介します。

(令和6年9月9日実施)

キーワード	情報発信、認知度
実際の意見	・ SNSの整備などデジタルの活用が必要 ・ 協議会の組織や活動の情報までたどり着かない ・ イベントに参加してもらえれば満足度は高いので参加率を上げるためのPRを行う ・ 活動の魅力が少ない、伝わっていない ・ 住民の認知度が低い

キーワード	少子化
実際の意見	・ 子育て世代の意見を聴く機会がない ・ 子ども会がなくなるなど、子ども向けのイベントや子どもが多数集まる機会が減った

キーワード	自治会・協議会の組織、体制
実際の意見	・ 自治会長の負担が大きい(役員兼務など)、すべてがハブとしての自治会長のところに集中している ・ 役員の高齢化、後継者不足 ・ 民生委員等、他の機関とのつながりが必要

キーワード	協議会の活動
実際の意見	・ コミュニティを超えた活動が必要 ・ 協議会と自治会の活動が重複している ・ 子どもから高齢者まで一緒に参加できるものがない ・ 活動の目的や方向性が分らない

キーワード	防災
実際の意見	・ 協議会で災害対策を実施、災害ボランティアをどう組織するか ・ 災害時の救援活動の課題、特に高齢者世帯のサポート ・ 防災備品を備えていても地域の人知らない



課題からの気づき
・ 広報活動や周知活動が不足しており、活動の魅力が十分に伝わっていないため幅広い世代を取り込めていない。 ・ 協議会と自治会の役割分担を明確化し、後継者となる世代が参画しやすいようにする。



3【第2回】地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中で「求められていること」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。4つのグループでどんな「問い」にたどり着いたかを紹介します。

(令和6年10月15日実施)

■ 設定された「問い」①

課題解決のための問い

「どうすれば、自治会組織の機能を強化できるだろうか？」

求められて
いること

- ・自治会組織のスリム化、似たような組織の統合
- ・何かあったときに動ける組織づくり(防災、防犯)
- ・自治会役員(会長)の負担軽減、役割分担
- ・活動の意義を伝える

■ 設定された「問い」②

課題解決のための問い

「どうすれば困っている人を把握し、必要な支援を行えるだろうか？」

求められて
いること

- ・独居老人の不安解消、相談しやすい仕組み
- ・買い物が困難な高齢の方、歩行困難な方へのサポート
- ・地域の安全確保(道路の穴、街路灯、子どもの見守り)
- ・高齢者が集う場所の確保

■ 設定された「問い」③

課題解決のための問い

「どうすれば鶴見台地区で三世代が参加し、一体となる取組ができるだろうか？」

求められて
いること

- ・ 何か誇れるような行事を企画して、三世代が集まり参加できるものがある
とよい
- ・ 協議会の活動が見えるような情報発信
- ・ 組織内の連携、近所とのつながり強化

■ 設定された「問い」④

課題解決のための問い

「どうすれば30代～50代の人を楽しんで参加してもらえる組織(活動)にしていけるか？」

求められて
いること

- ・ 子育て世代をターゲットにした活動をし、意見を聴く機会をつくる
- ・ 各町内がすることと、協議会がすることを仕分ける、整理する
- ・ 情報の周知、共有、LINEでつながる
- ・ PTA と連携した子どもを対象とするイベント

4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

【第2回】のワークショップにて、鶴見台地区の「本質的な問い」を4つ設定しました。

(令和6年11月11日実施)

課題解決のための問い

1. どうすれば、自治会組織の機能を強化できるだろうか？
2. どうすれば困っている人を把握し、必要な支援を行えるだろうか？
3. どうすれば鶴見台地区で三世代が参加し、一体となる取組ができるだろうか？
4. どうすれば30代～50代の人を楽しんで参加してもらえる組織(活動)にしていけるか？

この問いに対して、ワークショップの参加メンバーで4つのグループに分かれて、実際にどう行動していくかアイデアを出し合いました。

次のページから、内容について紹介します。



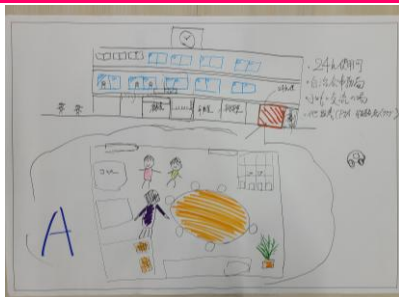
アイデア A

～拠点作りから活動へつなげる～

組織の拠点づくり

【課題解決のための問い】

どうすれば、自治会組織の機能を強化できるだろうか？



【アイデアの視点】

組織の機能を強化させるためには、拠点づくりが必要と考えた。子どもや民生委員、PTA、老人クラブも使える拠点にすることで交流を促し、活動につなげる。

学校施設を活用した拠点づくり

石垣小学校の「みんなの部屋」を事例として、学校の教室等を協議会の拠点として使用してもらう。拠点を学校に設けることで、児童や生徒、先生に活動やイベントのアナウンスもでき、チラシも配ることができる。民生委員やPTAにも使ってもらい、交流を促すこともできる。

誰もが利用しやすい拠点づくり

拠点内には、コピー機、プリンター、パソコンなどの事務機械がそろっている。円卓のテーブルがあり、囲碁将棋もあり、子どもと一緒に遊ぶこともできる。誰もが使用しやすい拠点にし、協議会の活動につなげていく。

アイデア B

～地域の情報を見える化し、地域で支援～

地域の困りごとマップ

【課題解決のための問い】

どうすれば困っている人を把握し、必要な支援を行えるだろうか？



【アイデアの視点】

地域の困りごととして、困っていることに対して、どのように支えていくかを考えた。地域の情報を見える化することで、地域で支援できるのではないかというアイデア。

家ごとの困りごとマップ

家ごとにマップをつくってみてはどうかというアイデア。地図の中に、「ここは一人暮らしの高齢者」「ここは支援が必要」などの課題や支援が必要なことが書いてあり、分類毎に色分けをする。こうすることで、地域の実情や課題が見え、支援につながるのではないかと考えた。

連絡先なども記載

地図には、困ったときの連絡先や緊急連絡先なども記載しておくことで、日常的に活用できるものとなる。困ったときに頼れる存在。

アイデア C

～イベントを通して人をつなぐ～
朝日を見て温泉で交流

【課題解決のための問い】

どうすれば鶴見台地区で三世代が参加し、一体となる取組ができるだろうか？



【アイデアの視点】

三世代が参加し、一体となる取組として、地域の温泉を活用した、誰でも参加できるイベントを考えた。

朝日を見て、温泉に入る

上人ヶ浜に朝日を見に行き、帰りに共同温泉に入ること、近所とのつながりや連携を強化する。温泉の無料開放(26日:フロの日など)を行い、集まりやすい条件を設ける。

共通のイベントを通して人をつなぐ

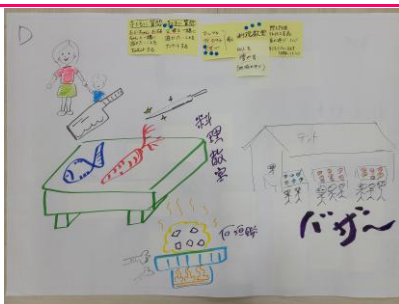
親子で参加した人は手をつなぐ。イベントを通して人と人をつなぐきっかけづくりとし、協議会の活動につなげていく。

アイデア D

～みんなが参加できる場をつくる～
料理教室とバザー開催

【課題解決のための問い】

どうすれば30代～50代の人を楽しんで
参加してもらえる組織(活動)にしていけるか？



【アイデアの視点】

みんなが楽しめる活動として、だれでも参加できるイベントを考えた。参加しやすいイベントにすることで、気軽に話し合える場となり、リーダーや人材の発掘につなげていく。

料理教室などのイベント

料理教室などの活動を通して、色々な方との接点となり、知人を増やすことができる。また、地域の子どもたちと話す機会となり、郷土料理を知る機会にもなる。

バザー開催

バザーも誰でも参加できるイベントと考えた。バザーでは、子どもに質問する機会を設け、おじいちゃんおばあちゃんと遊びたいことや、お父さんお母さんと一緒にやってみたいことなど、アンケートを取る。アンケート結果は、次の活動を検討する際に活用することができる。

5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	石 井 範 明	中須賀元町自治会長
副 会 長	首 藤 正 喜	石垣東六丁目自治会長
副 会 長	爲 房 亨	上人南自治会長
事 務 局 長	井 上 直 利	石垣東八丁目自治会長
会 計	田 口 正 美	石垣西四丁目自治会長
監 事	工 藤 光 宏	石垣東四丁目自治会長
監 事	久 保 学	中須賀本町自治会長
安心安全・防災部会長 部	彌 田 和 行	船小路町自治会長
いきいき・いきがい 成 長 部 会 部 長	西 元 英 和	桜ヶ丘自治会長
地 域 部 会 長 部	阿 部 格 治 朗	中須賀東町自治会長
美しいまちづくり部会長 部	安 部 秀 敏	石垣西十丁目自治会長
地 域 部 会 長 副 部	早 川 愛 子	石垣西六丁目自治会長
地 域 部 会 長 副 部	荒 金 隆	石垣西八丁目自治会長
安心安全・防災部会	勝 河 馨	石垣小学校長
地 域 部 会	塩 地 美 千 代	春木川小学校長
地 域 部 会	溝 部 敏 郎	中部地区公民館長
いきいき・いきがい 成 長 部 会	佐 藤 千 恵 美	鶴見台地区包括支援センター長
	土 田 英 典	石垣西四丁目自治会副会長